

鳥獣の個体数管理に関する実例集

平成23年3月

環境省自然環境局

目次

はじめに	1
------	---

捕獲の取り組み事例

1. 環境省による自然公園地域における取り組み	
1-1 シャープシューティングの導入	4
1-2 高山帯における捕獲の取り組み	9
2. 林野庁森林管理局による国有林における取り組み	
2-1 国有林野事業における取り組み状況	14
2-2 九州森林管理局における取り組み	15
3. 兵庫県における遠隔捕獲技術の開発	19
4. 長崎県における市街地に出没したイノシシ対策	23
5. 新島におけるシカ（外来種）の捕獲	27

捕獲に関する自治体の現状

1. 農耕地・集落地周辺における一般的な手法の実例	32
●ニホンジカ	36
●ニホンザル	43
●イノシシ	45
●ツキノワグマ	52
●ハクビシン	52
2. 山岳地域における個体数管理手法の実例	53
●ニホンジカ	56
●ニホンザル	66
●イノシシ	67
3. 原野等における個体数管理手法の実例	68
●ニホンジカ	69
4. 島嶼域等における個体数管理手法の実例	71
●ニホンジカ	72
イノシシ・シカ	72
5. 市街地における捕獲手法の実例	74
●ニホンジカ	77
●ニホンザル	77
●イノシシ	78
●ツキノワグマ	79

捕獲に関する統計資料集計

1. 日本における狩猟者と捕獲数の動向	84
2. 各自治体の鳥獣管理方針	89

はじめに

近年、野生鳥獣の分布が拡大して、農耕地にとどまらず、市街地へと大型のクマ、イノシシ、シカ、カモシカ、サルといった野生動物が出没し、住居や店舗内にまで侵入する事例が頻繁になってきた。また、シカが増加して高密度になった森林では、下層植物が消滅して裸地化するほどの強い食圧がかかり、土壌の乾燥化や流出、急傾斜地の崩落といった砂防の問題まで引き起こしている。植物を失った地域では樹皮をかじって樹木を枯死させ、森林景観が崩壊するほどの強い影響を与えている。こうした植生環境の変化の結果、そこに生息していた生物群集は棲めなくなり、時間とともにシカの好まない植物の繁茂する単調な環境へと移行しており、生物多様性の劣化が進んでいる。ことに自然公園地域の貴重な景観が維持されてきた原野や高山にまでシカが出没するようになって、景観の重要な要素となっている希少な植物群落にも強い影響が及んでいる。

こうした事態に対して、各地で捕獲の努力がおこなわれているところであるが、地域の過疎にともなう狩猟者の減少や、各種保護区のように、これまで狩猟者が立ち入ることのなかった特殊な環境で捕獲を実行する必要性が生まれている。

農地に出没する野生鳥獣の一般的な捕獲方法については、すでに農林水産省生産局によって「野生鳥獣被害防止マニュアル イノシシ、シカ、サル、カラス - 捕獲編 - (平成 21 年 3 月)」としてまとめられている。本実例集では、特にこれまで捕獲の対象になってこなかった地域における捕獲技術開発や、一般的な捕獲よりも効率よく捕獲を推進するための新たな捕獲技術の開発事例について 章において紹介した。

また、各自治体ではそれぞれに捕獲に取り組み、地域の猟友会による精一杯の捕獲努力がおこなわれ、捕獲実績は過去最高を更新している。それでもなおシカの増殖と分布拡大を抑制する効果が得られてない。また、狩猟者の高齢化と減少によって、捕獲の実行体制の維持も限界にきている。こうした自治体の担当者に対してアンケートを実施し、現場で必要としている課題や要望について 章に整理した。また、自治体ごとの捕獲努力量や狩猟者の増減を統計資料から抽出し、今後の可能性について 章に整理した。